

日本レジャー・レクリエーション学会

第32回学会大会の開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会
会長 松田 義幸

「世界を地域に、地域から世界に」大分県は国際交流を先取りしてきた、日本のモデル県である。その大分県でこのたび本学会の大会を開催できることは、まことに喜ばしいことでもあります。大分県の「障害者スポーツの国際交流」に、早くから関心を寄せる学会員が多くいたこともあって、大分大学の関係の皆様にお願ひし、今回のテーマを設定させていただきました。まず、最初にご協力下さいました関係者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

次に、この度の大会から新しい試みとして、3つのフォーラム・ワークショップを企画してみました。1つはセラピューティック・レクリエーション分野、2つめはレジャー・レクリエーション環境分野、3つめはレジャー・スポーツ事業分野である。1つめのセラピューティック・レクリエーション分野は、学会活動の中に専門部会としてすでに設置され、研究交流が活発になされており、これまでの活動成果を踏えて、このたびのフォーラムは企画されたものであります。また後の2つは、この度の大会で初めて企画されたもので、大会終了後学会の新しい専門部会として立ちあげることができるか、参加者の皆様の意見をぜひ寄せていただきたい。

長びく不況が続き、レジャー・レクリエーションの話題が遠のいた印象を与えているが、しかし、内閣府の世論調査に見るように、日本人の価値論、ライフスタイルは、物の豊かさから心の豊かさ追求へ、さらに一層強まっている。幸わせづくり、生きがい探し、自己実現、自己開発に関心が集まっている。この問題こそ、まさにレジャー・レクリエーションの中心的課題である。ユネスコが21世紀の教育の目標を生涯をかけて自己を完成に向ける“learning to be”においてるように、本大会で私たちの研究・教育課題のレジャー・レクリエーションを、人生80年の生涯学習の中にきちんと位置づける、活発な交流がなされることを期待したい。